

特集 2

今年度の活動を振り返って

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター



Special Feature Article

朝日山地森林生態系保護地域での活動

朝日山地森林生態系保護地域は、「東北のアルプス」ともいわれる朝日連峰の中枢部に位置し、白神山地と遜色のない規模のブナ林、高山植物など多種多様な植物が分布。ツキノワグマ、カモシカ、イヌワシ等の動物が生息する自然環境豊かな地域で、平成15年3月に東北・関東森林管理局管内にまたがる約7万haの森林に設定されました。

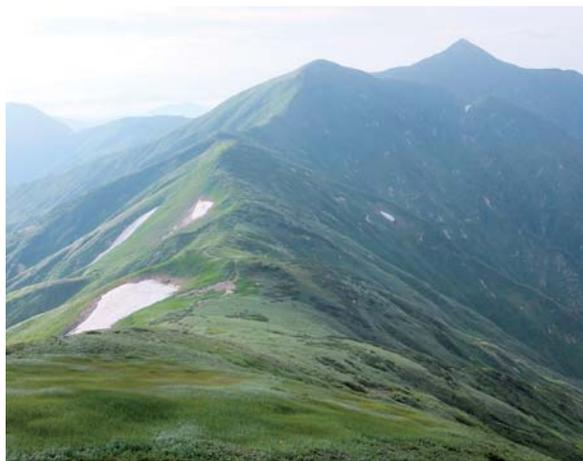
この貴重な森林を保全管理するため、地元住民、山岳会、溪流釣り協議会、学識経験者等からなる管理委員会を設置して、管理状況やモニタリング調査に係る事項について協議を行っているほか、約90名の巡視員を委嘱し、巡視活動の開始期、終了期に、巡視活動の計画、その結果等について相互の情報交換を行う巡視員会議の開催、シーズン期間においてボランティアによる巡視活動を行っています。



大朝日岳、小朝日岳をバックに
(鳥原山～小朝日岳：8月合同パトロール)

今年度の森林管理局、森林管理署職員と巡視員による合同パトロールは、泡滝ダムから大朝日小屋を経て古寺鉱泉に下る縦走

コース、朝日鉱泉から鳥原山を経て大朝日岳に向かい、朝日鉱泉（古寺鉱泉）に下る2コースで、登山の安全とマナー向上についての普及・啓発、ゴミや設置標識の状況確認等を行いました。



大朝日岳へと続く主稜線（西朝日岳～大朝日岳：8月）

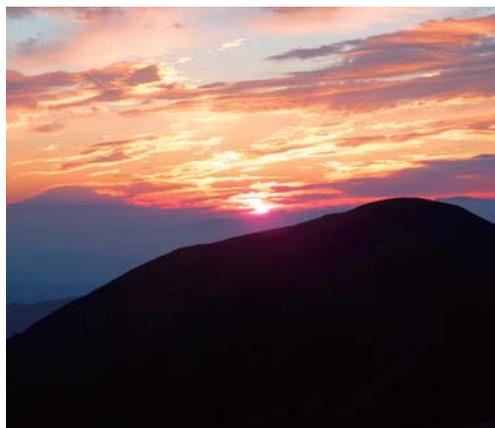
当日は天候に恵まれ、雨に遭わなかったものの、厳しい陽射しと炎天下の中で、体調を維持しながら無事踏破することの難しさを実感しました。

縦走コースでは、始めのうちはブナ林の中を進み、その後、大鳥池から稜線まで登っていくと、次第に視界が開けてきます。

以東岳まで来ると主稜線の山々、その先に三角錐の端正な形をした大朝日岳のパノラマが目の前に広がります。

登山口から大朝日岳へ至るルートはどれもアプローチが長く、楽なものではありませんが、高山植物、雪渓、どっしりとした山容が創り出す自然景観は、この場所で見ることができないものであり、それだけに、目にした時の喜びや感動もひとしおです。

この後、小朝日岳から大朝日岳にかけて、ハバチの一種（マツノクロホシハバチ）の幼虫が発生していると聞き、9月中旬に、局、センター、関係署の職員により生息状況の確認・調査を行いました。約一月前には見られなかった虫も、登山道沿いのハイマツにかなりの数を確認したため、捕殺作業も行いました。今年は昨年以上の発生となるのか予想がつかないものの、貴重な高山帯の生態系へ大きな影響が及ばないよう願っています。



竜門山を目前にした朝焼（竜門小屋：8月）



マツノクロホシハバチの生息状況調査
(小朝日岳～大朝日岳：9月)

特集 2

今年度の活動を振り返って

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター



Special Feature Article

庄内海岸林での活動

庄内海岸林は、秋田県に接する遊佐町



スギ人工林から天然林への誘導の取組 (鶴岡市大鳥国有林：10月)

また、10月中旬には、森林生態系保護地域では局内で初めての、人工林から天然林への誘導に取り組みました。

これは、森林生態系保護地域の保全利用地区内に含まれる人工林について、将来は天然林に導くことと管理計画に定めており、鶴岡市大鳥川の上流部に位置する庄内森林管理管内の国有林で、自然再生の森林整備ボランティアを行ったものです。

当日は、秋季の多くのイベントが重複する中、小学生を含む約30名が参加者し、午前中に雪害を受けたスギ人工林の被害木等を鋸を使って伐倒したり、玉切りした丸太を移動したりする作業を行いました。お昼は山の中の弁当・きのこ汁に舌鼓を打ち、午後は、スギ丸太を輪切りにしてコースターづくりをしたり、地域の自然を守る取組について話を聞くなどして、秋の深まりゆく朝日山地での一時を過ごしました。

今後は、理解・協力を増やして、継続的・着実に取組んでいくことが必要です。

平成22年には、クロマツ林の一部を庄内森林管理署と「遊々の森(しんちゃん森)」の協定を締結し、野外活動の場として活用しているほか、当センターでも、年間を通じて、クロマツ林の草刈り、「クロマツの歌」の野外練習、キノコの駒打ち、冬の渡り鳥の観察、木工づくり等自然や木とふれあう体験活動を行ってきており、毎回保育園児とのふれあいを楽しんでいます。

この「みどりの保育園」による取組は、積極的な発信をしており、園児たちは、6月に鶴岡市で開催された「やまがた森の感



チーム西荒瀬による「みどりの保育園」の活動報告 (岩手大学：11月)

から鶴岡市湯野浜にかけて広がる、約2千5百haのクロマツを主とする森林で、先人たちが築いた地域遺産を次代に引き継いでいくため、民有林と国有林が一緒になつて、クロマツ林の保全活動が活発に行われています。

この海岸林の一角に接する酒田市の西荒瀬保育園では、園児を対象とした森林環境教育「みどりの保育園」に取り組んできました。



山形大学との植生モニタリング調査 (戸沢村「土湯の森」：10月)

謝祭」で、「クロマツの歌」、「庄内米の歌」を大観衆の前で堂々と披露しました。

また、先生方12名による「チーム西荒瀬」は、昨年11月に行われた「いわて・東北の森づくり活動報告会」で、「しんちゃん森」での園児たちの活動やその成長ぶりについて、発表されました。

地元酒田の日和山楽団が作ったという「森づくりの詩」の合唱を交えた個性的な発表は、会場内を和やかな雰囲気にし、保育園での環境教育の取組について、参加者にも強く印象を与えたことと思います。

ここに記述したほかにも、朝日山地森林生態系保護地域等で体験活動型の森林環境教育を行う「朝日自然塾」、最上川スキー場跡地(土湯の森)での森林再生等の活動を行ってききました。

これからも、朝日山地森林生態系保護地域を始めとする森林生態系の保全・再生について、地域や関係者の皆さんと連携・協力をしながら取り組んでいきます。